

令和7年度 第2回越前町地域公共交通活性化協議会

議 事 録

開催日時：令和7年9月25日(木)

午後3時00分から午後4時35分まで

開催場所：越前町生涯学習センター2階会議室1

●出席者

- ・委員：16名（欠席者5名）
- ・事務局：4名
- オブザーバー：3名（計画策定受託事業者2名、越前町観光連盟1名）

●議事概要

- ・事務局より委員交代の案内

協議事項（1）第二次越前町地域公共交通計画（素案）について

	資料に基づき、事務局説明
議長	バス停の徒歩圏域について、90%の人に抵抗感がないと感じる距離は一般の方はここに書かれているように300m、高齢者の方は100mである。観光客や来訪者など大きな荷物があると、一般の方では150m、高齢者は80m、雨が降ってくると10mとも言われている。さらに高齢化率の推計値が令和17年では42.3%と高齢化が進む中で、100m、200mぐらいでカバー率をとらえてはどうかと感じた。 また、バス人口カバー率が、第一次計画の現状では90%に対し、今回は87%というところで、数%ではあるがカバー率が下がったところの要因は何かあるのか。そこをフォローアップしながら次の計画を立てていくことが必要ではないか。
計画策定受託事業者	カバー率の計算に際し、300mというのは高齢化を見据えたら長すぎるのではないかという指摘は、まさにその通りであると考えてる。 一方で、今回交通体系を見直すにあたり、自宅から利用できる仕組みのデマンドに比重を移すという意味で、目標値を300m圏域ではなく、集落カバー率に変えて整理した。 仮に100m圏域の停留所で算出すると、カバー率は下がってしまうところではあるが、そこは自宅から使えるデマンドのシステムを継続するという形で対応していければと考えている。
委員	デマンドタクシーに重きを置いて町民の足を確保していくという考えには、当然利用者が増えていくことを見据えてのことかと思うが、分析や整理の仕方はどのようにされているのか。

	例えば、何歳ぐらいの人がどういう用途で利用しているかを把握していて、今後も伸びていく、といったデマンドの伸びしろの状況を伺いたい。
事務局	実際利用されている方のうち、7割8割が80代である。 高齢者の方の行き先としては、宮崎織田地区にあるは織田病院やメルシ（ショッピングセンター）が多く、区域で比べると、朝日区域より宮崎織田区域のデマンド利用が多い。区域を合わせることで、それぞれの区域に行き来できるようになり、高齢者の方の行動範囲が広くなるということで、そこで利便性も高まるということに繋がっていくと考えている。
委員	高齢者に対する配慮っていうのが、越前町としては大変重要でないかと考える。全町で様々な課題を抱える中で、行政主体ばかりでなく、やはり地域住民と一体となって考えていく必要がある。町として何か考えがあれば教えていただきたいし、そういう立場に立って行政と連携をとりながら考えていきたい。
事務局	今後5年間の計画として町が提案させていただくものは、47ページにある公共交通網の形成イメージになる。こういった公共交通を持続させていく上で必要なことがあれば、住民の方のご意見を聞き、持続可能に進めていくようなことを考えていく。 例えばこの体系の持続が困難になったとき、改めて公共ライドシェアの導入も考えていく必要があり、そういったときに住民の方のご意見やご協力も必要になってくると考えている。
議長	昨年住民アンケートを取り、それを計画に反映していく形を今回も取っているが、アンケート調査から見える方向性や調査結果をどのように反映しているのかが非常に見えにくいと感じた。今、町としてやりたいことは分かるが、住民の皆さんからの意見がどのように計画に反映しているかが見えてこない。文章とアンケート結果みたいに書く方が、文章と比較されたものを見るので分かりやすいのではないかな。
委員	高齢者という部分では、高齢者ばかりの話では結果的には誰もいなくなってしまふとの話にもなりかねないので、例えば越前町の住みやすさや移動手段の周知により、新たな定住や若い人の移住に繋がるといった前向きな部分もあると読みやすいのでは。 また、アンケート調査も町民だけでも十分ではあるが、例えば外から来る方を対象に町内施設でアンケートをとって見たら面白いのではないかなと感じた。
議長	この公共交通計画は、地域住民の皆さんの日常生活や社会生活を支えるための計画ではあるが、法律の中では、来訪者や観光客の方がより良く移動できる公共交通の体系を目指そうということも書かれており、この辺りを事務局ではどう考えているか。
事務局	2次交通については、今回の観光連盟の公共ライドシェアもその1つ。この公共交通計画の中で観光客の2次交通の手段というのは具体的には盛り込まれていないが、観光部局等とそのような話もしており、また、福祉関係においては例えば介護タクシーなどの移動手段も市町を跨ぐ公共交通手段と

	して、何か利用の形態を考えられることはないかといったことも内々的には協議しているところ。
議長	人口当たりの利用者を維持する 19 万 5 千人というような目標を掲げているが、定住や移住、観光政策等と連携して、交流人口が今後どれだけ見込まれているのかを鑑みてこの目標値を設定していく、それがクロスセクター効果の部分に当たってくるのではないかと。非常にいい文言だと思うが内容もう少し工夫しながら、変えていけるようにするといったのでは。 また、町内外へ移動できる公共交通のネットワーク化というところでは、やはり越前町にとっては東西軸が非常に貧弱な部分だと思うが、鯖江や武生まで出ると南北は福井鉄道やハピラインの鉄道軸がある。直行便などすべてをバスで補い、次の 5 年やっていって本当にこの町のためになるのか、この辺はしっかり考えていかないといけない。負担金だけ増え、交通事業者の方も乗客数が減っていくと、行政も事業者も負のスパイラルに入っていくので、そこはしっかり考えないといけない。 町だけでは厳しいと思うが、民間企業から協賛金をいただき、その協賛金で運行するアイシンググループのエリアスポンサーの事例もある。行政だけの補助金に頼らず、民間の活力をどんどん入れていけるようになるとうい。 次回協議会では、この計画が町民にとってよりよい計画になるよう、行政や交通事業者との議論する場とするため、活発な意見や助言、アドバイス、提案をいただけるようお願いする。

報告事項（１）路線バス「鯖浦線」の増便および運行系統変更に伴うダイヤ改正について

	資料に基づき、事務局および福井鉄道㈱より説明
福井鉄道㈱	【補足説明】 弊社においては、時間外労働の制限など、いわゆる拘束時間規制の強化により運転士不足が深刻化をし、継続が困難となったことから、昨年 9 月末福浦線を廃止し、鯖浦線のダイヤを改正して運行を継続しているところ。 一方で、特に日中の時間帯に神明を結ぶ移動軸が手薄となり、丹生学校に通学する生徒の特別時間割での帰宅利用が困難になっている状況。また、近隣の鯖江市などへの通勤通学、観光移動を含めた広域的な交通手段の維持、並びに利便性向上に期待する住民のニーズは大変強いというふうに認識しており、往来を支える主要交通としての広域行政、地域間幹線の重要性について、改めて強く認識したところ。 については実情に応じた最適な生活交通ネットワークを確保維持するため、運転士の加配をすることなく、無理のない範囲で運転コース、配車の工夫をすることにより、鯖浦線を増便することが可能になった。関係する鯖江市においても 10 月 9 日の交通会議の方で報告がなされる予定。 運転手の状況については、県の支援制度もあり、採用に努めているが、運転士の高齢化等々、欠員が充足できない状況が依然として続いている。 今回そのような状況の中で、工夫に工夫を重ねた中での増便ということで、

	何卒ご理解を賜りたい。
--	-------------

報告事項（２）越前町観光連盟による公共ライドシェアの実施について

	資料に基づき、観光連盟より説明
委員	確認になるが、車両には有償許可の車体表示をお願いしたい。また、運行の開始時期について教えていただきたい。
観光連盟	車体表示は手配中。許可番号や自家用有償と分かりやすいマークをつけて運行する予定。実際の運行開始については、また改めて連絡させていただく。
委員	国からの補助を受けての実証運行ということで、来年の３月で終了ということはないか。ずっとやっていただけるのか。
観光連盟	国の補助期間が来年２月までとなっており、あくまで実証という形で行うが、以降も引き続き観光連盟の自主財源を使いながら運行していきたい。再来年以降のことはまだ未確定の部分もあるが、車両も準備した以上は、途中でやめるということがないように一生懸命頑張らせていただく。
委員	JR 新幹線の越前たけふ駅から、例えば織田地区の劔神社に行く場合、迎車料金はかからないのか。 また、乗車は JR 駅またはハピラインだけか。福鉄の福武線は？観光連盟が行う公共ライドシェアではあるが、要は町民が利用できるかどうか。
観光連盟	乗車場所まで向かう区間の料金の計算はしないので、あくまで乗車場所から降車場所までの距離での料金計算になる。 補足になるが、この事業としては越前町の交通空白をカバーする観光客の足を確保するということをまず第１に考えており、越前町から駅の方への送迎を主なところとしている。今の事例のように、駅から越前町内に来られる場合では、まずは駅にあるタクシー事業者を活用するよう案内させていただく。丹南地区で行っている定額タクシーの制度も、あわせて案内する。
委員	織田地区の劔神社からハピライン武生駅までは大体いくらか。
観光連盟	概算になるが、道の駅越前から越前たけふ駅までいくと大体 8000 円ぐらいというような計算をしているので、劔神社からだ、もうちょっと安い金額で送迎できる見込み。

●その他

委員	鯖浦線の時刻表のことになるが、織田まではたくさんバスが来ているが、織田止まりでその先のかれい崎行きは空欄が多い。少しでも地域住民に歓迎され、住みやすい町になるようにしていきたいと思うが、この状況どう考えているか。
事務局	今回の資料では表示していないが、織田でコミュニティバスや武生越前海岸線と接続しており、こちらへの乗り継ぎでかれい崎方面に行くことができる。乗り継ぎは必要になるが、乗り換えすることによって足は確保されているというような周知も行っていきたい。
委員	6 月の協議会で、越前地区から福井市内への高校の実証運行について提案さ

	れたと思うが、他の地区からの乗車についてどうなったのか状況を教えてほしい。
事務局	あくまでも今年度については実証運行という形をとらせていただいている。その中で利用者数も含め、例えば来年度からの運行について、どういった形で運行していくかということを、運用の見直しを含め、検討する予定。次の具体的な運行についてこの場での発言は控えるが、あり方については、検討する余地はあると考えている。